悲歎

〔日本書紀武烈十六〕十一年、○仁賢是時影媛逐行戮處、○戮平群鮪於乃樂山見是戮已、驚惶失所、悲涙盈目、遂作歌曰、○中略柂摩暮比儞、瀰逗佐倍母理、儺岐曾裒遲喩倶、柯㝵比謎阿婆例、

〔吾妻鏡十一〕建久二年十二月十五日己丑、故土佐房昌俊老母、自下野國山田庄參上之由申之、則召御前、申出亡息事頻涕泣、幕下太令歎給、被下綿衣二領云云、

〔十訓抄十二〕十月ばかり月あかゝりける夜、經信卿を宗として、宗俊卿、政長朝臣、院禪、慶禪、長慶、樂人三四人、宰相中將隆綱、管絃者にはあらねども、すきものにて伴ふ、又少將俊明など各車に乘て、五節命婦世をそむきてゐたる、嵯峨の家に行にけり、○中略秋風樂三反、蘇合みなつくして、萬秋樂の序より五帖まで有けるに、なみだおとさぬ人なし、此うち俊明何事にもすべてなかざりければ、犬目の少將といはれけるぞ、こよひは人にも勝れて袖をしぼるばかりなり、

〔類聚名義抄二口〕吟カ○ナ○シ○フ○　噫正譩カナシム　〔同心六〕憮音武カナシフ　悯音冈カナシフ　懦正カナシム　慅倉到反カナシフ　慘千感反カナシフ　慜カナシフ　怜音蓮カナシフ　憐隣音連カナシフ　悵丑亮反カナシフ　〔同衣六〕哀烏來反カナシフ、和アイ、

〔伊呂波字類抄加人事〕悲痛也カナシフ　哀　閔　哽　惗　匈　悽　羿　摎　慜　悵　懇　折　惘　惕　晏　矜　憐　涼　懦　噫　嗚　咽　慟　臨　矜　悼已上同

〔書言字考節用集八言辭〕愴恨カナシム文選　流涙日本紀同　悲同　慟同　閔同　哭同　嗟同

〔倭訓栞前編加六〕かなしむ　悲哀をいふ、神代紀に流涕をよめり、金肅の義なるべし、秋金肅殺の意あり、

〔新撰字鏡口〕喟然叙同、口愧、口怪二反、去、大息也、歎聲也、噴也、奈○介○久○、又於毛保氏留、　㖷詩伊反、出氣息、心呻吟也、(中略)奈介久、　呻舒神反、吟也、歎也、左万與不、又奈介久、　嗟子取反、憂歎、阿、又奈介久、

〔類聚名義抄二口〕吟正、許齡、二或、眞今反、ナゲク、カナシフ、　嗟作何反、又子邪反、ナゲク、　喟口恠、口愧、二反、ナゲク、　咷大力反、ナゲク、